

福島県出身の児童図書作家・画家たち



「小公子」の訳者
若松賤子

して中心的存在にあるのです。
しかし、その一方にあつて児童図書
の作家の存在はあまりに地味であると
しかいえません。このことは県内出身
しかいえません。このことは県内出身

の作家の存在はあまりに地味であると
しかいえません。このことは県内出身
しかいえません。このことは県内出身

内秋生、「青踏」の同人であり「女傑
一ジヤンヌ」を訳した水野仙子などが
それです。児童文学に対する関心の薄
い明治期にあつてこれだけの実績を残
した人物を輩していることを、われわ
れは改めて認識する必要があるのです。

ないでしょうか。

これらの先駆者の実績を前にすると

現代の児童文学作家たちの活動は色あ
せて感じるかも知れません。しかし、

児童文学全盛の今日においてその質、
量ともに劣るはずがありません。明治

期の児童図書は翻訳、伝記などが主体

で今回発刊したリストでは、七十四人

の人について掲げましたが、このう

ちの大半が現代作家です。これらの中

から特筆すべき何人かをあげてみまし
よう。

まず最初にあげられるのは、さきほ
どもあけた郡山市出身の菅生浩です。

一九七四年に「単立つ日まで」で日本
児童文学者協会新人賞を受賞し、これ

によりある児童図書の作家、画家たちと
その作品について紹介したいと思いま
す。

県立図書館では五月に福島県出身の
児童図書に関する作家や画家の作品の
展示を行い、この人物目録「福島県出
身児童図書作家・画家リスト」を作成
しました。今回は、これら福島県に関
わる児童図書の作家、画家たちと
その作品について紹介したいと思いま
す。

福島県における児童文学の先駆者は
意外に数多くいます。さきにあげた若
松賤子の他に最近菅井旭県立図書館長
が、福島民報に連載した少年向け雑誌
を専門としている出版社までが、児童
図書を出版するようになりました。

これは、図書館においても同様で、
長い図書館活動の歴史の中で、児童に
対するサービスが行われるようになつ
たのはごく最近の話であり、二十年程
前まで児童は図書館の利用者としてほ
とんど考へられていました。し
かし、それが今や図書館活動の対象と

はテレビ作品にもなりました。その後

「小国民」の編集で有名な石井研堂や
東海散士のゴーストライターの噂があ
る高橋太華、わが国初の児童文学専門
家集団「少年文学研究会」を作った山

NHK児童文学賞を「いやいやえん」

「小国民」の編者
石井研堂

で受賞した中川季枝子も代表的作家です。彼女の代表作「ぐりとぐら」のシリーズは現在日本の児童文学で最も人気のある作品として評価されています。この他、第六回赤い鳥文学賞、第二十五回サンケイ児童出版文化賞を受賞した上崎美恵子、第三十回毎日児童小説賞に入賞した一色悦子らも忘れられない作家です。また本の好きな子どもなら知らない者はいない「吉四六さん」のシリーズを書いているのは靈山出身の富田博之です。

一方、絵のほうでは「大造じいさん」と「ガン」など椋鳩十の作品を中心に書いている北島新平、「ペーター」の赤ちゃんなどの代表作をもつ国井節、小学校絵画賞、毎日出版文化賞受賞の渡辺三郎らがいます。これらの作家の作品はいずれも馴染みのあるものばかりですが、その作家が福島県出身と知っている人はほとんどいません。

また、このように中央にて活躍している作家が多い中で、福島の土地で作品を書き続いている片平幸三や新開ゆり子、佐藤久子などの作家がいることも忘れられません。

さきにも紹介しました「福島県出身児童作家・画家リスト」を市町村の図書館及び公民館等に配布いたしますので、ご覧になりたい方はぜひそちらの方へおでかけ下さい。

また、詳細につきましては、県立図書館児童室までお問い合わせ下さい。